

# からしだね

日々のみことばの黙想と、主日礼拝の準備に……

2026.4.13-4.19

<p>4.13 月曜日</p>	<p><b>「完全な道を歩む人は安らかに歩む。道を曲げれば知られずには済まない。」</b>(箴言 10:9) ●人間の“完全”は、キリストを信じることによって始めて実現します。信仰のなかにキリストは臨在し、私たちの罪とキリストの完全が共有される「喜ばしい交換」が生じるのです。“Waking with Jesus”こそ完全な道を歩むということなのです。一方で、「道を曲げる」とは、みことばを無視して生きる歩みです。しかし、神は私たちが曲がった道を歩んでしまったとしても、どこまでも追いかけてご自分のもとに連れ戻して下さいます。安心して歩いていきます。</p>
<p>4.14 火曜日</p>	<p><b>「主よ、わたしたちのために大きな業を成し遂げてください。わたしたちは喜び祝うでしょう。」</b>(詩編 126:3) ●近年、ユダヤ人がシオン(現在のパレスチナ)に帰る神の「大きな業」が成就するとする「シオニズム」が世界に大きな影響を与えています。ですが、神の成し遂げた「大きな業」とはイエス・キリストの十字架と復活以外ではありません。そして、神は新しいイスラエル(選びの民)として教会を選びました。武力や虐殺によって神の「大きな業」は決して実現しません。キリストの福音とそれに従う教会の宣教こそが神の選んだ「大きな業」なのです。</p>
<p>4.15 水曜日</p>	<p><b>「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神の様々な恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。」</b>(Iペトロ 4:10) ●私たちはなかなか自分に自信が持てません。「誰かと比べれば大したことない」と自分をあきらめてしまっている、そんなことがないでしょうか。ですが、信仰をいただいた私たちの内にはキリストが住まい、私たちが自分では手に入れることができない多くの賜物(プレゼント)が与えられています。そして、その賜物は自分のものではありません。それを受け取った責任として誰かのために「奉仕」という形で注ぎ出してゆくことを主は望んでおられます。それが「愛」です。主にあって自信過剰に生きてゆきましょう。</p>

4.16  
木曜日

「すべての点で主に喜ばれるように主に従って歩み、あらゆる善い業を行って実を結び、神をますます深く知るように。」(コロサイ 1:10) ●ここでは善い業を行うことが神をますます知っていくことと関係があると語られています。私たちの内におられるキリストが働くとき、私たちの「信仰」は受肉し「善い業」へと導かれてゆきます。その時に、キリストが十字架の上で何を考えていたのか、地の底に下ってゆかれた時どんな苦しみを感じられたのかを少しずつ知ってゆくのでしょう。私たちの内で生じる「受肉」が私たちに神というものを教えるのです。

4.17  
金曜日

「イエスは再び言われた。『わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。』」(ヨハネ8:12) ●神はいつも密雲の闇の中におられます。先日キリスト教学校の修学旅行中の痛ましい事故が報道されました。20年間続けられてきた米軍基地建設反対を訴える活動の中で起きた悲劇でした。「絶対に起きてはいけないこと」がこの地上では起きます。このような密雲の闇の中で私たちはどうすればよいのか、分からなくなります。ですが、その時にこそ、私たちはただ主に頼るしかないと知ります。これが「信仰」です。闇の中におられる神を、「キリストへの信仰」という光が指し示すのです。私たちはイエス・キリストという光がなくては生きて行けません。

4.18  
土曜日

「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔を向けてあなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。主が御顔をあなたに向けて、あなたに平安を賜るように。」(民数記 6:24-26) ●このみことばは旧約聖書の文書が記載されているものでは最も古い「ケテフ・ヒンノムの巻物」という考古学資料に記されていることで有名です。紀元前7世紀から残る考古学的証拠が神の存在を時代を超えて伝えています。契牧師の祝祷もこの箇所です。

4.19  
日曜日

「十分な権威をもってこれらのことを語り、勧め、戒めなさい。誰にも侮られてはなりません。」(テトス 2:15) ●教会でみことばの奉仕をする者は、十分な権威をもって語りなさい、とパウロは語ります。人間は権威を手に入れると傲慢になります。しかし、ここで語られているのはテトス自身の権威ではなく“みことばの”権威です。キリスト教において、人間の中の誰も権威を持ち得ません。ただ、主イエスキリストであるみことばだけが権威を持ち、説教者もこの権威に与りながら語り続けるのです。